

徹底! 水管理

三重県内の田んぼでは、夏の高温、日照不足、台風の到来などにより、未熟粒や倒伏が発生し、米の品質低下が問題となっています。

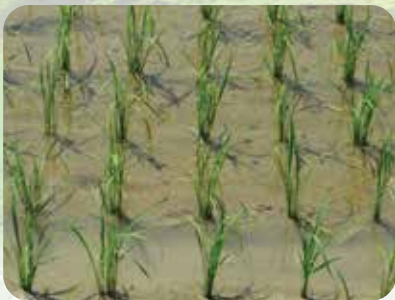
そこで、県内では、三重県産米を食べるすべての方に「おいしい!」と感じてもらえるよう“良質米づくり運動”に取り組んでいます。

秋・冬に行った“田起こし”の効果は適切な水管理によってはじめて発揮されます。元気な稲を育てるために、“水管理”の方法を確認しましょう。

ポイント 1

田んぼを乾かすことが大切!!

田植えから約**1ヶ月後**を目安に（有効な茎数を確保できたら）**中干し**を始めましょう。根の健全な生育、過剰な分けつの抑制などにより、**収量や品質の向上**に繋がります。



中干しには早い



中干し適期



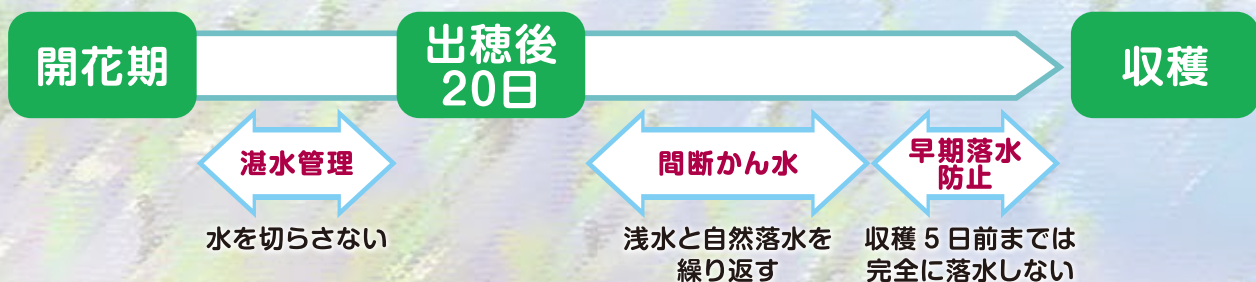
中干しには遅い

ポイント 2

登熟期の水管理に注意!!

開花期は最も水が必要な時期です。**水を切らさない**ようにしましょう。

出穂後20日を目安に**間断かん水**を行い、**収穫5日前までは完全に落水しない**ようにしましょう。



生育時期に応じた適切な水管理を!!

水管理方法は稲の生育段階によって異なります。品種や気象条件によっても異なりますが、三重県での基本的な流れは次のとおりです。

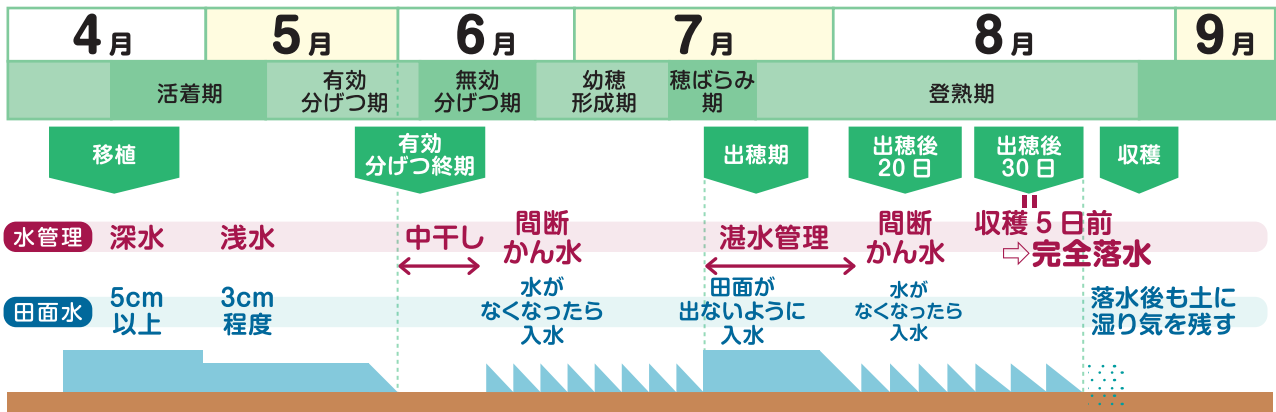


図. 水稻の生育と水管理のイメージ (4月下旬に移植したコシヒカリの例)

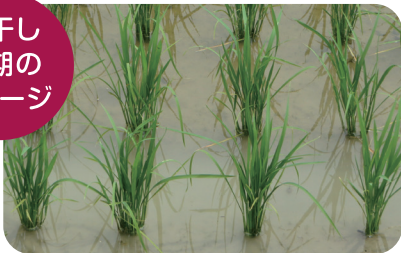
※詳しくはJA等へご確認ください。

ポイント1: 中干し

Q: 中干しはいつから始めるの?

A: コシヒカリの場合、田植後約1ヵ月ほどで、
茎数が20本/株程度となった頃が目安です。
(※60株/坪植えの場合)

中干し
適期の
イメージ



適期に開始
することが
ポイント!

コシヒカリは特に! 倒伏を軽減し、未熟粒の発生を抑制!

Q: 中干しの程度は?

A: 田面に幅1cmほどの小さな亀裂が入り、
軽く足跡がつく程度が目安です。

標準的な
中干し



過度な中干しは
根を傷めます!

- 土壌への酸素供給で根が健全になります。
- 有効茎歩合が高まります。
- 稈が太くなり、倒伏を軽減できます。
- 収穫前の排水性が良くなります。

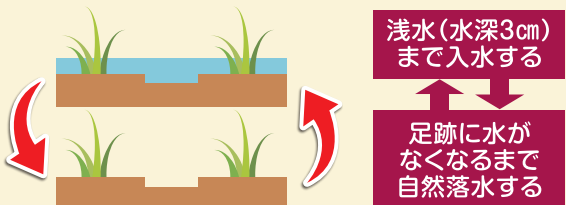
ポイント2: 登熟期の水管理

Q: 開花期はなぜ水が必要なの?

A: 水不足が乳白粒の発生につながります。
水を切らさないようにしてください。

Q: 間断かん水って?

A: 「自然に落水⇒入水」のサイクルを
繰り返す管理法です。間断かん水により、
登熟後期まで根の活力が維持されます。



Q: 落水の時期は?

A: 収穫5日前を目安としてください。早く
落水すると未熟粒や胴割米が増えます。

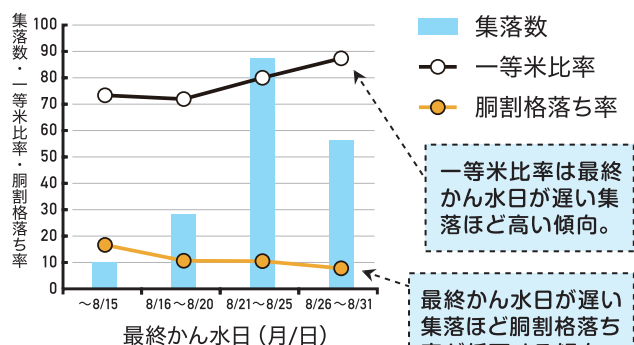


図. 集落の最終かん水日と一等米比率及び胴割格落ち率 (H.25, JA越後ながおか)

一等米比率は最終かん水日が遅い集落ほど高い傾向。

最終かん水日が遅い集落ほど胴割格落ち率が低下する傾向。